

<日本の地理、歴史、文化についての1時間半の講義時間を4つのパートに割り振る>

パート1 桜美林大学と日本の総合紹介 20分

- 1-1. 自己紹介と大学及び研究所の紹介 (5分)
- 1-2. ー日本紹介 全般 地理、歴史、文化、政治・経済 (各5分、15分)
 - ー 世界から見た日本 今もなお不思議な国、日本
 - ー 日本文化の受容 中国、ドイツ、ロシアでの生活体験から説明
 - ー マンガ、アニメ、コスプレ、寿司、カラオケ、茶道、盆栽、柔道など

パート2. 日本の伝統文化について 茶道と武道 (各7分、20分)

- 2-1. 伝統文化と現代生活 お茶も元は男性の嗜み、明治以降に女性を中心となる
- 2-2. 現代の日本に伝統文化の茶道はどのように生きているか 企業の視点から
 - ー おもてなしの精神 (ホスピタリティに富んだサービス精神、マナーの良さ)
 - 秘書と茶道 一杯のお茶にその人の人間性の全てが表れる
- 2-3. 武士道と日本 忍者は現代の日本にもいると思う外国人が多い
 - ー 柔道の国際化 柔道着もカラフルに、試合は体重別に
 - 欧米でも柔道、空手は人気 ロシアのプーチン首相と柔道の関係は強い
 - ー 相撲の国際化 国技、今も昔通りの伝統秩序の中で技を競う、体重別ではない

パート3. 日本の観光資源 (20分)

- 観光には3つの役割がある ①文化的役割、②自然的社会的役割、③経済的役割
- 3-1. 自然 美しい日本の自然 海外に出た日本人の多くが日本を再発見する
以前の日本の代名詞の定番は「ふじやま (富士山)、げいしゃ (芸者)」
海外の作品にはどこにでも富士山が出てくる。例；蝶々夫人 (マダム・バタフライ)
幕末にロシアのプチャーチン提督とその一行は4カ月間、伊豆の戸田温泉に滞在し、
富士山の美しさに感嘆している。
 - 3-2. 四季の美しさ 俳句は四季があつての文学、タイでは3シーズンしかない
「秋、春、冬、夏」の順に多く作られ、季語は秋が最も多く、夏は最も少ない。
 - 3-3. 日本の女性について
幸は「西洋の屋敷に住み、中国料理を食べ、日本の女性を妻にする」有る西洋人の言葉。
女文字 (ひらがな) の有る唯一の国。日本の歴史文学に占める女流作家の地位は高い。
日本女性の優しさを言葉から考える。例；外国人との日本語の会話で、あいづちの「ウ
ン、ウン」を相手のレベルに合わせて自然に何度も使って会話が成り立っている。

パート 4. 日本の自然風土と企業文化 日本企業は日本文化のかたまり (20 分)

4-1 事例 ; 花見 (はなみ) から日本社会、企業社会を考える

日本では 4 季に従い社会活動がおこなわれる。正月から春、夏にかけては、卒業、入学、花見、田植え、夏祭りと続く (農業社会から工業社会に移行後も同様)。

一斉入学、一斉卒業、一斉就職は日本独特の慣行 (法律で決められた制度ではない)

花見もトップの乾杯で一斉にスタート、縄張り、内と外、集団あつての個人 (欧米のように個人有つての集団ではない)、桜と人生を結び付ける (特に死とのつながりを結び付ける、この例では 西行法師の歌は有名)

”願わくは花のもとにて我 (ワレ) 死なん、そのきさらぎの望月 (モチヅキ) のころ”

4-2 事例 2 ; 日本の産業文化 コンビニ (及び自動販売機) の事例

日本人社会に無くてならないもの。一番海外に持ってゆきたいものナンバー 1.

便利、サービス、笑顔がモットー (ポリシー)。日本人の国民性に向いている。

弁当、おでん、銀行業務、郵便配達、役所の代行、とサービス業務を拡大してきた。

学生バイトの主要な受け入れ先でもある。

4-3 事例 3 : 日本の代表的企業の企業文化 品質管理の事例

トヨタは 5 S で品質管理を全世界の工場で行っている ①SEIRI (整理)、②SEITON (整頓)、③SEISO (清掃)、④SEIKETSU (清潔)、⑤SHITSUKE (躰、しつけ)

重機のコマツはロシア地域の販売成績をこの 1 年間で 74% 伸ばした。

品質管理を最重点項目にあげている。品質管理は関係部所全員の協力によってできる。

質疑応答 10 分ほど

まとめにかえて (これはやはり文章にしないと気持ちがあらわせれない)

かつての日本の代名詞「ふじやま、げいしゃ」は、今では「ふくしま、げいしゃ」に代わるほど昨年 3 月の「福島原発」と地震、津波の災害は日本イメージと日本を見る海外の目を一変させた。皮肉にもかつての日本の経済的繁栄からくる羨望とその裏返しでもある日本バッシングは影をひそめ、日本への同情と見直しが世界で沸き起こった。

ロシアの多くの人から寄せられた日本への厚意についても複数の友人の企業人から聞いている。日本人であれロシア人であれ、好むと好まざるとにかかわらず進むグローバル化の波の中で、今、大事なことは現実をありのままに見て、事実をまず理解することでありましょう。新しい出来事を知るとともに古い伝統的な歴史、文化を知ることが大切です。

若いロシアの皆さまに今回の私の講義「日本の歴史、地理、文化」が少しでもお役に立つのであれば本懐です。最後に皆さまのこんごのご健康とご活躍をお祈りします。

以上